

リスクコミュニケーションの推進について

【第 2 回検討部会での御意見】

- 学生自らが正しい情報を活用できるような取組をしていただきたい。

○ 情報を伝達する際に、いかにコンパクトに伝えるかが重要となる。情報を伝える際にはポイントを絞った伝え方を考える必要がある。

○ 関心の低い層への情報を伝える手段が課題。

○ おあがりスを活用した啓発用動画の作成やイベント業者等と協力を図ってはどうか。

1 リスクコミュニケーションの推進を図るうえでの課題

- (1) ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）等の情報媒体の発達に伴う、誤った情報や不安をあおる情報への対策

(2) 次世代を担う若い世代への対策

(3) 無関心層への啓発や情報発信の方法

2 対策方針

年代別に食に関する情報源が異なることから、目的や対象を明確にし、様々な媒体を活用した効率的、効果的な情報発信を図る。

<食に関する情報源>

| 順位<br>(%) | 15～19 歳                          | 20 歳代                            | 30 歳代                            | 40 歳代                            | 50 歳代                            | 60 歳代           | 70 歳代           |
|-----------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------|-----------------|
| 1         | 家族・親戚<br>(62.5)                  | インターネット・<br>携帯・スマートフォン<br>(57.9) | テレビ<br>(54.8)                    | テレビ<br>(59.7)                    | テレビ<br>(68.3)                    | テレビ<br>(67.5)   | テレビ<br>(68.7)   |
| 2         | 学校<br>(55.8)                     | テレビ<br>(56.2)                    | インターネット・<br>携帯・スマートフォン<br>(54.0) | インターネット・<br>携帯・スマートフォン<br>(43.1) | インターネット・<br>携帯・スマートフォン<br>(30.7) | 新聞<br>(38.1)    | 新聞<br>(40.8)    |
| 3         | テレビ<br>(53.3)                    | 家族・親戚<br>(53.6)                  | 家族・親戚<br>(45.2)                  | 家族・親戚<br>(32.4)                  | 雑誌<br>(30.2)                     | 家族・親戚<br>(29.8) | 家族・親戚<br>(36.2) |
| 4         | インターネット・<br>携帯・スマートフォン<br>(33.3) | 知人・友人<br>(22.1)                  | 雑誌<br>(20.2)                     | 雑誌<br>(21.5)                     | 家族・親戚<br>(26.0)                  | 雑誌<br>(27.4)    | 雑誌<br>(24.1)    |
| 5         | 知人・友人<br>(12.5)                  | スーパー、小売<br>業者・飲食店                | 知人・友人<br>(18.3)                  | 知人・友人<br>(19.8)                  | 新聞<br>(24.7)                     | 医療機関<br>(22.6)  | 知人・友人<br>(22.2) |

平成 2 7 年度食育アンケート「食に関する情報源」  
(各年代別上位 5 位までを抽出)

### 3 次期推進計画での取組内容（案）

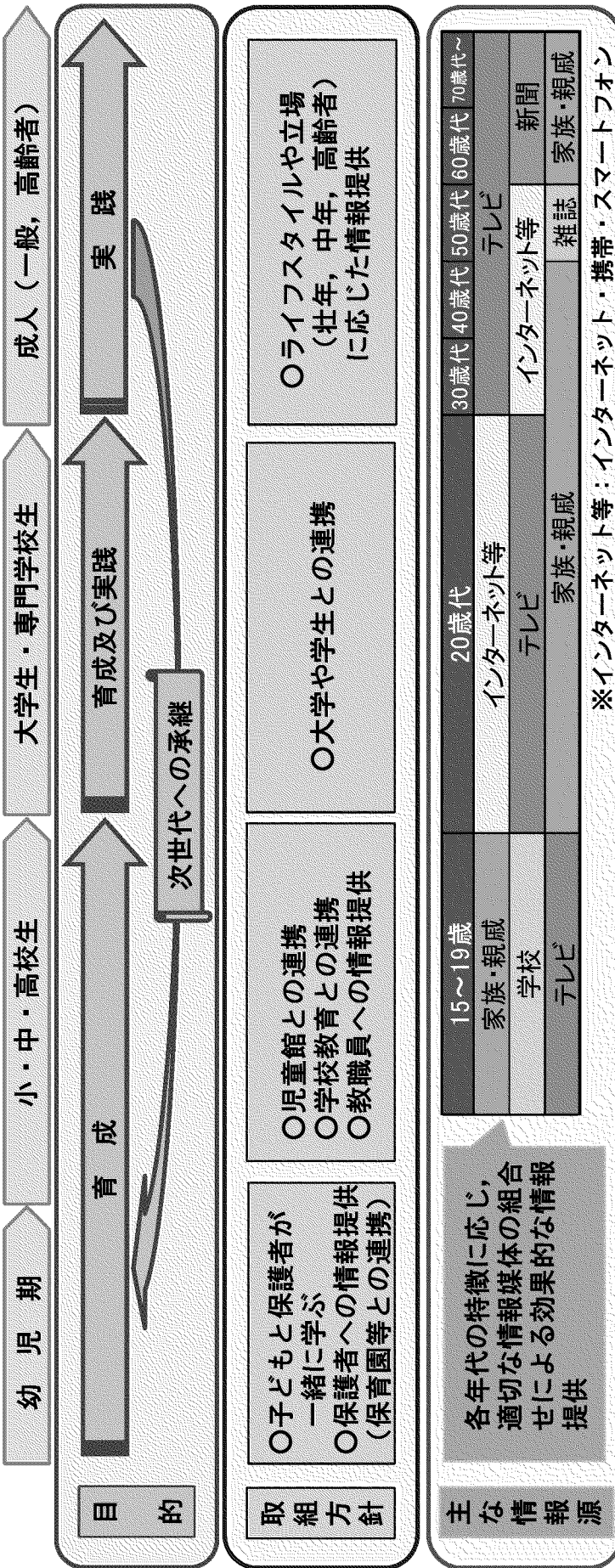
各年代の特徴に応じ，リスクコミュニケーションの推進を図るうえでの課題や対策方針を踏まえ，特に大学生，専門学校生等の次世代を担う若年層への取組を重点的に実施する。

また，年代を問わず，食中毒予防や食の安全に関する情報発信等を様々な媒体を活用して，継続的に発信していく。

| 対象             | 取組方針                                                                          | 取組内容（例）                          |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 幼児期<br>小・中・高校生 | ○子どもと保護者が一緒に学ぶ<br>○保護者への情報提供（保育園等との連携）<br>○児童館との連携<br>○学校教育との連携<br>○教職員への情報提供 | ○子ども向けツール（動画）による啓発               |
|                |                                                                               | ○保護者・教員向けツール（解説書）での啓発            |
|                |                                                                               | ○保護者や教師が子どもとともに実践するツール（手洗いの歌）の活用 |
|                |                                                                               | ○おあがりス（食の安全安心啓発キャラクター）の活用        |
|                |                                                                               | ○食育指導員との連携                       |
| 大学生・<br>専門学校生  | ○大学や学生との連携                                                                    | ○学祭マニュアルの普及                      |
|                |                                                                               | ○大学間ネットワークの活用                    |
|                |                                                                               | ○学生の活用（学生食品衛生監視員の養成）             |
|                |                                                                               | ○ピアエデュケーションの推進による正確な情報の伝達        |
|                |                                                                               | ○学生向けツールによる啓発                    |
| 成人<br>（一般，高齢者） | ○ライフスタイルや立場（壮年，中年，高齢者）に応じた情報提供                                                | ○様々な媒体を活用した正確な情報の継続的提供           |
|                |                                                                               | ○食育指導員への安全情報の提供                  |

## 安心できる食生活の実現に向けた体系的なリスクコミュニケーションの推進

ポイント ①目的、対象の明確化、②年齢階層に応じた取組、③若年層（大学生、専門学校生）への対策、④観光旅行者への対策



- 取組内容
- 子ども向けツール（動画）による啓発
  - 保護者・教師向けツール（解説書）での啓発
  - 保護者や教師が子どもとともに実践するツール（手洗いの歌）の活用
  - おあがりス（食の安全安心啓発キャラクター）の活用
  - 食育指導員との連携

- 学祭マニユアルの普及
- 大学間ネットワークの活用
- 学生の活用（学生食品衛生監視員の養成）
- ピアエデュケーションの推進による正確な情報の伝達
- 学生向けツールによる啓発
- 体験型学習

- 様々な媒体を活用した正確な情報の継続的提供
- 食育指導員への安全情報の提供

カンピロバクター食中毒予防対策

関係機関との連携による国内外への京の食の安全情報の発信